

校長メッセージ 講話より NO4 平成29年10月5日

題「命のつながり」ご先祖様の話から考える。

ご先祖様の話から命のつながりについて知り、命は受け継いだものであり、受け継いでいくものであることを知り、自分の命の大切さ、人の命の大切さに気づくことができる。

「講話の概略」

自分のご先祖さま、一番近いのは両親、そのまた両親、そしてその両親・・・と言うように無限に繋がっていることを示し、祖先の繋がりの上に自分がいることに気づかせる。今いる自分にもこれから成長していく自分にも多くの人々の思いが込められており、日本人として次の世代にいろいろなものを受け継がす責任があることを知らせ、そのためにも日々の学習、生活を高めていく意義を感じ取ってもらいたい。

○模造紙のマスキングを剥がしながら話をすすめる。

1 ご先祖さまについてイメージをもつ。同じ苗字の「佐藤さん」から考える。

「ご先祖さま」って聞いてどんなことを思い浮かべるか。お墓、仏壇、線香など。同姓の佐藤と付く人は？ 同じ苗字の「佐藤さん」兄弟は別として、「ご先祖さま」は一緒だろうか。みんな違う。では、どんな人をご先祖さまって言うのだろうか。

2 命をくれた人について見ていく。模造紙のマスキングを取りながら話す。

「命をくれた人」は誰だろうか。・・・そう、皆さんのお父さん、お母さんですね。その命をくれた人を「ご先祖さま」って言うんですよ。お父さん、お母さんがまずご先祖さまです。お父さん、お母さんに命をくれた人はだれですか。そう、皆さんのおじいちゃん、おばあちゃんです。お父さんの方にもお母さんの方にもいるので4人になりますね。では、その先は（8人 マスキングを取る）また、その先は（16人になる）またまた、その先は（32人 マスキングを取る）・・・（64人）こう考えていくと、ご先祖様はいったい何人ぐらいいるんでしょうか。（マスキングを全部取る）このようにさかのぼればさかのぼるほど、すごい数になることに気づかせる。

3 命は繋がっていることを再認識する。

一人ひとりの命は、このようなつながりの中にあること、誰もが多くのご先祖さまがいること、今ここにこうして生きているのは、多くのご先祖さまからの命のつながりがあるからこそ、その結果今自分がいること。だからこそ、一人ひとりの命が尊い。やがて大きくなり、結婚して子どもが生まれるかもしれない。そしてまた、その子どもが大きくなり、結婚して子どもが生まれってというように、ずっとずっと命が繋がっていく。

4 命が大切なわけを繋がりから考え、生きていくことには様々な人の思いも込められている。

自分が今ここに生きているということは、大勢の人たちの上に生きている。別の言い方をすれば「生かされている」「命」は、自分一人の命ではなく、多くの人々の思い、つながりの中で生きている大切な命である。だから誰の命も大事にしなければならない。「生きている」ということは、家族を含め、大勢の人たちの思いが込められている。近所の人、習い事の先生やコーチ、監督もそれらの人である。もちろん先生たちもその一員である。先生たちは、みんなの生きていくための応援団。「将来日本の国を支える皆さんを育てる。」そんな思いで一生懸命教えている。時には厳しく指導するのは、一人前の大人になってほしいとの思いからもある。そして将来、日本人として次の世代に自分が学んだことや人として大切なことをなど、その知識や心を受け継がさなくてはならない責任がある。

5 ご先祖さまを大切にすることによって自分にできることを知る。

ご先祖様を大切にすることで、お盆に実家に帰る。墓参りをする。仏壇にお線香をあげる。そしてまずは、一番身近なご先祖さまであるお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん、などを大切にしてほしい。自分が簡単に出来るのは、話をすることや話を聞くことでよい。遠くにいる場合は、電話をしたり手紙を書いたりすればいい。

何をするのもよい季節の10月、命を引の継ぎということからも運動や勉強に益々励んで欲しい。